

<p>■ <b>氏名 (フリガナ)</b>          林ノ セイ  <b>大下 聖治</b></p>	和泉短期大学 児童福祉学科 准教授
<p>■ <b>担当科目</b>          乳幼児体育、体育理論実技、保育実習</p>	
<p>■ <b>専門分野及び関連分野</b>          スポーツ方法学、コーチ学、幼児体育、</p>	
<p>■ <b>最終学歴</b>          日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（社会体育学コース）修了</p>	
<p>■ <b>最終学位</b>          修士(体育学)</p>	
<p>■ <b>職歴</b>          日本体育大学助手、和泉短期大学非常勤講師、関東学院大学非常勤講師、神奈川大学非常勤講師</p>	
<p>■ <b>所属学会</b>          日本体育学会、日本体力医学会、日本公衆衛生学会、日本運動スポーツ科学学会、          日本体操競技・器械運動学会、日本トレーニング科学研究会</p>	
<p>■ <b>学生指導</b>          学生委員会委員、アスリート部顧問、バスケットボール部顧問</p>	
<p>■ <b>研究テーマ</b>          (短期) 保育系学生の体力評価と向上プログラムに関する研究          (短期) 高齢者の介護予防策としての運動処方に関する研究          (長期) 運動技術の指導法と安全対策幫助法に関する研究          (長期) 子どもの運動機能と身体運動遊びに関する研究          (長期) 運動技術の方法的運動系列に関する研究          (長期) PDAを用いたIT技術利用による運動学習環境構築に関する研究</p>	
<p>■ <b>社会的活動</b>          1. 1991, 05 スポーツアクロ体操 World Cup東京大会運営・総務役員          2. 1992年～1993年度 厚生省「健康運動実践指導者」資格講習会評価委員          3. 1992年～1993年度 日本エアロビックフィットネス協会「健康運動実践指導者」資格講習会評価委員          4. 1993, 06 NHK教育テレビ「テレビスポーツ教室（体操）」コーチ(1993年6月5日放映)          5. 1991, 05 スポーツアクロ体操 World Cup東京大会運営・総務役員          6. 2002年～2003年度 生活習慣病予防対策事業（講演・指導担当）          7. 2003年度 平成15年度町田市市民大学講師          8. 2003, 04～2005, 03 財団法人日体スワロー 理事          9. 2004, 04～ NPO法人 世界健康・スポーツ振興協会 理事          10. 2009年度～ ハイテク・リサーチ・センター整備事業「e-ケア型社会システム形成」調査担当  <b>【学会関係】</b>          1. 2002, 06 第9回日本運動スポーツ科学学会大会実行委員（於：神奈川大学）          2. 2004, 06 第11回日本運動スポーツ科学学会大会総務委員長（於：日本医科大学）</p>	

### ■ 研究業績（著書・論文等）

1. 【論文】「親子間による相互のスポーツ参加に関する一考察—子供のスポーツ参加による親への影響を中心に—」（単独） 1990/03
2. 【論文】「親子間におけるスポーツ参加の影響 —特に子供からの影響を中心に—」（共同） 1990/12
3. 【論文】『スポーツ運動技術の指導法の研究—「その後方かかえ込み宙返り」の方法的運動系列の一検証—』（共同） 1993/09
4. 【論文】『「その後方かかえ込み宙返り」の方法的運動系列の検討』（共同） 1996/03
5. 【論文】「文学部女子学生の体力の現状—1992年度から1996年度—」（共同） 1996/12
6. 【論文】「バレーボール競技の攻撃の特徴」（共同） 1999/09
7. 【論文】「身体表現の実践 ～動きの表現性とイメージの伝達（小群舞について）～」（共同） 2005/03
8. 【論文】「身体表現の実践 ～1部(昼間)・2部(夜間)学生の作品鑑賞の違い～」（共同） 2006/03
9. 【論文】「和泉短期大学生の体力の現状」（共同） 2009/03
10. 【論文】「ポール・ウォーキングに関する基礎的研究」（共同） 2010/03
11. 【論文】「和泉短期大学における子育て支援事業の活動報告（3）」（共同） 2010/03
12. 【論文】「子育て支援における保護者のニーズと保護者理解—比較検討と協同可能性を探る—」（共同） 2011/03
13. 【論文】「運動の指導技術習得に関する研究」（単独） 2011/03
14. 【その他】（テキスト）「コーチング論」（共同） 1994/04
15. 【その他】（翻訳）植村慶一監訳「オックスフォード・生理学 第7章、25章」（共同） 2001/09
16. 【その他】（翻訳）植村慶一監訳「オックスフォード・生理学原書2版 第7章、25章」（共同） 2005/03

### ■ 研究業績（招待講演）

1. 2002～2003年度 生活習慣病予防対策講演会（(財)日体スワロー、(財)全国保健福祉情報システム開発協会（単独））
2. 2003年度 町田市市民大学「心と体の元気学」講師（町田市教育委員会（単独））

### ■ 研究業績（学会発表）

1. 1994/10 伸身姿勢に着目した後方伸身宙返りの指導法の一試論（日本体育学会第45回大会（共同））
2. 1997/10 バレーボールの国際試合における攻撃の特徴（日本体育学会第48回大会（共同））
3. 1998/06 バレーボールのVリーグにおける攻撃の特徴（日本運動・スポーツ科学学会第5回大会（共同））
4. 1998/10 バレーボールの大学生の試合における攻撃の特徴（日本体育学会第49回大会（共同））
5. 1999/06 バレーボールの攻撃—世界トップレベルと日本との比較—（日本運動・スポーツ科学学会第6回大会（共同））
6. 1999/06 ゲームの理論を用いたバレーボールにおける攻撃の分析（日本運動・スポーツ科学学会第6回大会（共同））
7. 1999/10 Min-Max 定理のスポーツへの応用—1998年バレーボール世界選手権をモデルとして—（日本体育学会第50回大会（共同））
8. 2000/06 バレーボールの世界カップ大会における攻撃（日本運動・スポーツ科学学会第7回大会（共同））
9. 2000/09 シャトルラン・テストにおける評価の適応性についての検討（日本体力医学会第55回大会（共同））
10. 2000/10 バレーボールの攻撃—世界トップレベルの動向—（日本体育学会第51回大会（共同））
11. 2001/06 シャトルラン・テストにおける評価の適応性について— $V_{O_2max}$ の換算値と実測値の関係—（日本運動・スポーツ科学学会第8回大会（共同））
12. 2001/09 シャトルランテストにおける評価の適応性についての検討—心理的アプローチの試み—（日本体力医学会第56回大会（共同））
13. 2009/08 ノルディック・ウォーキングに関する基礎的研究—介護予防運動への活用を目指して—（日本体育学会第60回記念大会（共同））
14. 2009/09 保育士養成の短期大学における学生の生活とその課題（全国保育士養成協議会第48回研究大会（共同））
15. 2009/09 保育士養成系短期大学における学生の体力の現状と課題—体力テストとアンケートの結果から—（全国保育士養成協議会第48回研究大会（共同））

16. 2009/09 運動による虚弱高齢者の日常生活行動活性化を目指したケアシステムの開発  
～ハイパーミラーを用いた遠隔体操指導の試案～ (第64回日本体力医学会大会(共同))
17. 2009/10 高齢者の運動に効果的なケアシステムの開発-超鏡を用いた体操指導映像の意匠について  
(第68回日本公衆衛生学会総会(共同))
18. 2009/11 Development of care system to activate frail older adults' activities in daily life (No2):  
Effectiveness of walking exercise by synthetic techniques of Chromakey  
(The Gerontological society of America,62nd Annual Scientific Meeting(共同))
19. 2010/09 ポール・ウォーキングに関する基礎的研究-介護予防運動への活用を目指して-  
(日本体育学会第61回大会(共同))
20. 2010, 09 高齢者が行うポール・ウォーキングに関する事例的研究-島しょ地域での活用を目指して-  
(日本体育学会第61回大会(共同))
21. 2010, 09 高齢者が行うポール・ウォーキングに関する事例的研究-N島での運動プログラムの実態調査-  
(第65回日本体力医学会大会(共同))
22. 2010, 10 高齢者の運動に効果的なケアシステムの開発-携帯情報端末を利用した動作学習の可能性-  
(第69回日本公衆衛生学会総会(共同))
23. 2010, 11 Development of Care System to Activate Frail Older Adults' Activities in Daily Life: III.  
Effectiveness of Exercise by Synthetic Techniques of ChromaKey.  
(The Gerontological society of America,63nd Annual Scientific Meeting(共同))